



ドリラス

富山県

No.69 2013年10月

中央植物園だより



第16回私の植物写真展応募作品「無題」 撮影/谷口文夫さん

チシマザサ(イネ科)

富山県では「すすたけ」と呼ばれているチシマザサは、北海道から本州（山陰地方以北）の日本海側の山地に分布し、別名ネマガリタケとも呼ばれ、筍は山菜として親しまれています。林床を覆うように生育しますが、開花するとその株は枯れて地表に光が入るので、樹木の芽生えが生育できるようになります。

新春カトレア展開催のお知らせ



2014年1月4日(土)・5日(日)にサンライトホールにおいて、この時期ちょうど見頃となるカトレアの珍しい原種などを県内愛好家の協力により展示します。なお、4日は休園日ですが、今回特別に開園いたします。



BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

中央植物園開園20周年記念 「くすりの植物コーナー」 開園式レポート

富山県は300年以上もの歴史をもつ配置薬業により「くすりの富山」として知られており、常設の薬草園の開設が望まれていました。平成23年から雲南温室前で区画の整備を進め、7月28日に「くすりの植物コーナー」としての開園式を行いました。

当日は猛暑の中、来賓の富山大学民族薬物資料館伏見裕利館長、富山県薬用植物指導センター大江勇所長、富山市公園緑地課古沢富美男課長ほかによるテープカットが行われました（写真上）。その後サンライトホールに場所を移して、伏見先生により「富山県で栽培可能な薬用植物と本草書の記載」という演題で、記念講演会を開催しました（写真中）。平安時代に編纂された「延喜式」に、16種の薬用植物が富山県で栽培されていたことが紹介されました。伏見先生には「くすりの植物コーナー」の開設にあたり、薬用植物の監修で協力していただいたほか、展示植物も提供していただきました。現在くすりの植物コーナーにはカンゾウやシャクヤクなどの薬用植物のほか、体に良い成分が含まれているゴマやトウガラシなど約50種を栽培展示しています（写真下）。

講演会終了後、伏見先生と神戸企画情報課長より、植栽された薬用植物の解説が行われました。



夏休み子ども企画 「オオオニバスに乗ってみよう」レポート

今年も夏休み子供企画「オオオニバスに乗ってみよう」を8月16日(金)～18日(日)の3日間開催しました。

連日の猛暑にもかかわらず、3日間で約1500組の方々が訪れ、記念撮影などで楽しみました。今年は本物の葉に乗れない体重30kg以上のお子様や、親子で乗りたいという方のために、オオオニバス(パラグアイオニバス)の葉の模型を作製し(写真)、実際の葉に乗ったのと同じ感覚を味わっていただきました。



写真で見る植物園の20年 その2

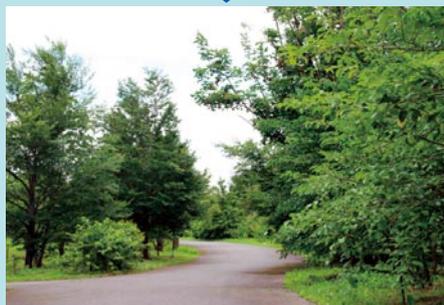
開園20周年を記念して、このコーナーでは20年間の中央植物園の移り変わりを写真で紹介します。



1994年(平成6年)8月、ミズナラ・ブナの森の西側園路を南方向に向かって撮影。植栽後間もないために、樹木より支柱の方が目立っていました。



1994年(平成6年)8月、花のプロムナードのソメイヨシノ。幹の間から芝生広場が広くみえてきました。



2013年7月に同じ場所で撮影。一番左のブナは現存し、近年は結実するようになりました。



2013年7月に同じ場所で撮影。幹の太さはおよそ2倍に肥大し、鬱蒼とした静かな空間になりました。

研究紹介◎ 『外来キクタニギクによる固有種リュウノウギクの遺伝的汚染が始まっている?!』

中央植物園園長 中田政司

植物園だよりの2006年1月号に、『野生ギクの保全に関わる外来種問題』というタイトルで、外来キクタニギクによる固有種リュウノウギクの遺伝的汚染のおそれについて報告いたしました。その懸念が現実のものとなってしまいました。

2012年10月、富山市榆原(旧細入村)の外来キクタニギクの発見地でリュウノウギクとの雑種が発見されたのです。2005年の発見当時、交雑を防ぐために外来キクタニギクは全て駆除し、その2年後に発見された取り残しの株も駆除しておいたので交雑の心配はないと思っていたのですが、すでに外来キクタニギクにリュウノウギクの花粉がかかっていたようです。

調べてみるとこの個体は花粉稔性が33.4%と低く、染色体やDNAレベルでもキクタニギクとリュウノウギクの雑種であることが確認されました。この株の茎は1本だけでしたが、枯れた茎の跡があることから、少なくとも去年は花を着けていた可能性があります。

そうすると、この雑種個体と在来リュウノウギクとの戻し交雑による遺伝的汚染が心配されます。また、過去にキクタニギクの花粉がリュウノウギクに運ばれた可能性も否定できません。そこでリュウノウギク個体群から任意に13個体を調べてみたところ、2個体で花粉稔性の低い個体が観察されました。

そのうち特に稔性が23.5%と低い個体にはキクタニギクの特徴を示す染色体が確認されました。これは、外来キクタニギクによる在来リュウノウギクの遺伝的汚染の初めての事例と考えられます。

今や外来キクタニギクは北海道から九州まで全国各地で発見されており、場所によっては一面に群生していたり、在来のキクタニギクの自生地にも侵入が見られます。これまで在来のキクタニギクとリュウノウギクは異所的に分布し、交雑の場所は限られていましたが、今後リュウノウギクの分布域に入り込んだ外来キクタニギクによって、新たな交雑例が発見されるのではないかと危惧されます。リュウノウギクの保全にとって深刻な問題です。



富山市榆原(旧細入村)で発見された外来キクタニギクとリュウノウギクとの雑種

植物園トピックス

①富山北部高校とのコラボ企画 「オオオニバスうちわ」を作成

平成24年度に県立富山北部高校の生徒が提案したデザインを基に「オオオニバスのうちわ」を作成し、8月16～18日に開催した「オオオニバスに乗ってみよう」に参加した子供たちにプレゼントしました。



デザインを提案した富山北部高校24年度卒業生が、完成披露に駆けつけてくれました。

②マカダミアナッツ初結実

ハワイ観光土産のマカダミアナッツ入りチョコレートとして知られているマカダミアは、オーストラリア北西部原産のヤマモガシ科の樹木です。

植物園では1995年5月に熱帯果樹室に植栽し、数年前から花は咲いていましたが、今年4月に初めて結実しました。



マカダミアの果実。この中の堅い果皮に包まれた種子を食用にします。

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展には入園料が必要です。

開園20周年記念展

「写真で振り返る植物園のあゆみ」
10月4日(金)～11月20日(水)

第7回 秋のラン展

11月22日(金)～11月24日(日)

クリスマスの植物

12月6日(金)～25日(水)

干支にちなんだ植物

12月13日(金)～1月22日(水)

開園20周年記念展

「新春カトレア展」

1月4日(土)～5日(日)

■講座・講習会

★きのご観察会 ◎要申込

10月12日(土) 9:30～13:00
会場・申込先 頼成の森 0763-37-1540

★顕微鏡観察講座⑤ ◎要申込

「池の中の微小な藻類」
10月20日(日) 13:30～15:30

★顕微鏡観察講座⑥ ◎要申込

「染色体を見る」
11月17日(日) 13:30～15:30

★栽培講習会②

「ランの栽培と管理」
11月23日(土・祝)・24日(日)
13:30～15:00
会場：ドリアスホール (入園料が必要)

クリスマスフェア

12月6日(金)～8日(日)
50種類のポインセチアを一堂に展示します。そのほか植物の販売やコンサートをを行います。(入園料が必要)

植物園でバードウォッチング

12月8日(日) 9:00～11:00
(入園料が必要)

■月例行事

緑のコンサート

10月5日(土)、11月2日(土)
第1土曜日 14:00～15:00
開催場所/サンライトホール
参加費/入園料が必要

植物ガイド

ーボランティアと歩く植物園ー
毎週日曜日 13:30～14:00
集合場所/サンライトホール
参加費/入園料が必要

◎要申込 事前の申込が必要です。申込は前日までに「電話」でお申し込みください。

★印は植物園ボランティアの養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日
(4月中とGW、お盆、祝日の場合は開園)
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下通年無料
冬期入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 300円
団体料金(20名以上) 240円
高校生以下通年無料
年間パスポート(購入日より1年間有効) 2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファポール」経由萩の島循環または「ファポール」経由速星行き(休日のみ)に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分